



心豊かでたくましく自ら学び続ける青木っ子

# 青木の風



令和8年10月13日 青木小学校だより NO.7

～児童の活動を中心とした日々の学校の様子は、学校ホームページに掲載しています～

## 自分で判断する情報力を身に付けよう ～みんなのネットモラル塾～

10月9日（金）PTA 成人教育委員会の主催による「みんなのネットモラル塾」が開催され、5年生の児童と参加を希望された保護者の皆様と共に学びました。スマートフォンやオンラインゲーム等、インターネットが子どもたちの生活に身近なものである今、その適切な使い方について、学校とご家庭が共に考えることは大変意義深いことです。このような貴重な学びの機会を設けてくださった PTA の皆様に、心より感謝申し上げます。



さて、講演会では、情報社会を生き抜くために必要な3つの力について学びました。1つ目は、「よみとくチカラ」。インターネット上の情報をうのみにせず、正しい情報かどうかを確かめる力です。2つ目は、「かんがえるチカラ」。情報を受け取ったり発信したりするときに、相手の気持ちや周囲への影響を考え、自分で判断する力です。3つ目は、「かつようするチカラ」。ルールやマナーを守りながら、インターネットを生活や学習に役立てる力です。子どもたちは、様々な事例やクイズを通して、これら3つの力について真剣に考えました。そして、インターネットを利用する際には、「ルールやマナーを守って気持ちよく使うこと」「よく考えて、もう一度調べること」が大切であると学びました。

### 【子どもたちの感想】

- ・前までは、すぐLINEを送っていたけれど、立ち止まって、送る前に見てみようと思った。
- ・LINE相手に正しく伝わるかを見直していきたい。

インターネットや生成 AI の普及により、誰もが簡単に多くの情報を手に入れられる時代になりました。しかし、情報があふれる時代だからこそ、目にした情報をそのまま受け入れるのではなく、「本当だろうか」「ほかの考え方はないだろうか」と立ち止まり、自分で確かめ、考えることが大切です。本校では、今年度の重点目標として「つながりを大切に、主体的に学び、自分を生かす学校」を目指しています。主体的に学ぶとは、与えられた情報を受け取るだけでなく、自ら問いをもち、必要な情報を集め、考え、判断しながら学びを進めることです。また、身に付けた知識や力を、自分の生活や周りの人のために役立てることが、「自分を生かす」ことにつながると考えています。デジタル・シティズンシップ（情報モラル）教育においても、単にルールやマナーを教えるだけでなく、子ども自身が適切に判断し、責任をもって行動できる力を育てることが大切です。そのためには、学校での学びと家庭での実践をつなげていくことが欠かせません。スマートフォン等の情報機器の活用について、折に触れ、お子さんと話し合っただけであれば幸いです。学校でも、子どもたちが情報を自らの学びや生活に生かせるよう、主体的に考え、判断する力を育ててまいります。

※「豊田市小中学生がスマホを上手に利用するための 豊田のルール4か条」もご参照ください。